

平成10年2月6日

『アフリカの教育視察団、高南小学校を訪問』

6日、アフリカからの教育視察団が、日本の教育現場を見学しようと、豊島区立高南小学校（高田2-12-7 寺崎利子校長）を訪れた。視察団はガボン、ジブチ、チャド、カメルーンなど仏語圏アフリカ諸国14カ国14名で、それぞれ本国では教育に従事している青年幹部たち。

今回日本を訪れたのは、外務省が、青年招聘計画（各国の優秀な青年を我が国に招待し、我が国の政府・民間関係者及び青年との交流を通して、対日理解の増進を図る）に基づき実施したもので、一行は今月3日に日本を訪れ、12日まで都内の教育施設や広島・京都を見学する予定。小学校を訪問したのは、日本の教育事情、学校施設、学校給食を視察するのが主な目的。

午前11時前、校庭にプラスバンド演奏が響く中、視察団が小学校に到着した。子供たちは折鶴の手作りレイを団員一人一人にプレゼントし、握手を求めるなど、大変にぎやかな出迎えとなった。

団員の自己紹介と6年生の高木周平君の歓迎の挨拶が終わると、到着時間が遅れてしまったこともあり、団員たちは、さっそく子供たちの遊びの輪に入った。屈託なく接してくる子供たち、団員たちはすっかりリラックスし、縄跳びやダンスに興じた。

15分ほど校庭で子供たちと遊んでから一行は校内へ。団員用のげた箱にはそれぞれ子供たちが手作りした各国の国旗が貼られており、団員たちは細やかな気配りに感激していた。視察団は、談話室で一服した後、さっそく授業参観へ向かった。全クラスを周り、国語・理科・図工・音楽などの授業を参観した。団員たちは、メモをとりながら熱心に授業の様子を見学していた。各教室では、通常の授業のほか、手作りのプレゼントを用意したり、こま回しやケン玉を紹介したりと工夫を凝らした内容に団員らは満足そうだった。

授業参観が終わると給食の試食会が行われた。この日のメニューはワカメごはん・魚の照り焼き・さつまいものレモン煮など。団員たちは、美味しい美味しいと口々にいていた。

団員からは、子供たちについて、「しつけが良くできており、みんな学ぼうという姿勢ができています」「子供たちが自分で工夫して物を作っていることに感動した」などの感想や、学校施設については、「校舎がきれいで、子供たちのインスピレーションを豊かにするのに役に立っているのではないか」などの感想が寄せられた。

ボンジュールで始まり、さよならで終わった半日だった。

詳細 教育委員会指導室